

**平成30年度
福知山市まち・ひと・しごと・あんしん創生有識者会議
議事概要**

【日時】

平成30年10月25日(木)午後1時30分～午後3時00分

【場所】

市民交流プラザふくちやま 3階 ギャラリー

【出席者】

別紙のとおり

【事務局】

別紙のとおり

【会議の概要】

- 1 開会
- 2 あいさつ(伊東副市長)
 - ・福知山市の総合戦略は、国の総合戦略を受けて平成27年3月から10月にかけて様々な分野の方に参画いただき作ってきた。
 - ・平成25年・26年の水害を受け、「あんしん」を足した総合戦略となっている。
 - ・策定後の有識者会議では、その後の進捗状況をフォローアップしながら、委員の皆様方に意見をいただき、より良いものにしていこうということで取り組んできた。
 - ・福知山市は、地理的な位置関係から兵庫県の丹波市・朝来市との日常生活圏があり、京都府だけでなく、府県を越えた人の交流というものを目指しているところである。
 - ・委員の皆様方には忌憚のない多角的・総合的なご意見を賜りたい。
- 3 委員紹介・委嘱状交付・事務局職員紹介
- 4 福知山市まち・ひと・しごと・あんしん創生総合戦略について
事務局から、資料1に基づき説明。
- 5 平成29年度実施事業の評価に関する意見交換
事務局から、「アクションプラン平成29年度実施事業の検証シート」の各事業の実施概要について説明後、各委員から意見をいただいた。
- 6 閉会

【主な意見】 ★=委員発言 ☆=事務局及び事業担当課発言

★委員

- ・NO.4の「福知山鉄道ポッポランド事業」について、評価シートの中に平成30年度以降の予定が記載されているが、30年度以降にどのような方向性になるのか。今、議論中ということなのか。

☆事務局

- ・現在議論しているところである。

★委員

- ・評価シートについて、全体的に情報が少ない。
- ・去年と比べてどうだったのか。時系列分析とか、比較しないと数値の意味はない。
- ・例えばNO.8「くの一武道大会開催事業」では、102人の応募があったが、これが多いのか少ないのか、担当課はA（非常に効果があった）としているが、目標値を立てておられるのか、何と比較しているのかがよく分からない。

☆まちづくり推進課

- ・例年、応募の数を100人に設定しており、90人程度の応募で50人の参加があった。平成29年度については、参加者数を10人増やして60人にしたところ、目標の100人も達成できた。
- ・また、報道社数もこれまで4社程度であったが、平成29年度は8社の取材があった。

☆事務局

- ・各シートの欄の関係もあり、比較等まで含めて書いていないところがあるが、それは来年度への反省とさせていただく。今回は各課の担当がそれぞれいるので、この数値はどうだったかというところも含めて御意見いただきたい。

★委員

- ・比較というのは大事であるので、比較する数値は出してもらったほうがよいと思う。
- ・NO.1「佐藤太清記念美術館特別展事業」では、昨年度より入館者数が減少したとあるが、これは担当課からするとA（非常に効果があった）としたかったのに、数値的に減少したからB（相当程度効果があった）という判定にしたのか。

☆文化・スポーツ振興課

- ・平成28年度については、全国的に著名な作家の作品展があり、特に集客が大きかった。また、平成29年度については、数値は前年より減少しているが、事務事業評価の目標値である4,000人もクリアし、総合的にBの判定とした。

★委員

- ・福知山市の美術館に人を呼び込むために情報発信を行うということを考えたときに、姉妹都市の島原市で佐藤先生の出張美術館みたいなものをされたことはあるか。

☆文化・スポーツ振興課

- ・若手のアーティストを育成することを目的とした、全国6箇所で行った佐藤太清記念美術展というものを行っている。
- ・島原市については、現時点ではできていない。

★委員

- ・NO.8「くの一武道大会開催事業」は、とてもおもしろい事業だと思う。
- ・予算自体は少ないし経済効果は抜群だと思うが、もっと人が呼べるのではないかと。やり方によっては、費用は抑えてもっとおもしろいことができるのではないかと。

☆まちづくり推進課

- ・もう少し幅を広げて、参加者以外の方を対象にお城まつりとかスイーツフェスティバルとのコラボ企画も検討し、事業として拡大していく方向で検討したい。

★委員

- ・NO.9「スイーツフェスティバル事業」について、福知山は「スイーツのまち」と銘打っているが、何のスイーツかというところまで踏み込み、福知山にしかない物でスイーツに結びつけていけるようなものができればよいのでは。
- ・スイーツコンテストは至るところでやっている。福知山のこのスイーツは違うぞというものを作り上げたら、それだけでもっと人が呼べるのではないか。

★委員

- ・なぜ福知山で海の京都の事業を行っているのか。

☆事務局

- ・圏域として観光振興を進めていく中で、何かしらの名称が必要だということで、京都府がつけられたもの。

★委員

- ・その名称だと福知山市だけ通過していくというイメージになってしまうのでは。

☆事務局

- ・福知山市は「海の京都」「森の京都」どちらも入っているが、インバウンドの一つの受け皿としての位置づけである。

★委員

- ・「海の京都DMO」「森の京都DMO」の両方を合わせて、観光消費額約20億円ということなのか。

☆産業観光課

- ・福知山市全体の観光消費額として約20億円となっている。

★委員

- ・インバウンドが近畿圏域で消費された額というのが1兆1,584億円というデータが出ている。初めて昨年度1兆円を越えた。
- ・その中で大阪が8,700億円、京都が2,331億円ということで、この2府で9割を占めている。
- ・京都市内が圧倒的に多い中で福知山は20億円ということなので、そんなに懸念する必要はないが、通過客が多くて、例えば大阪で泊まっているインバウンドが城崎に行ってしまう。
- ・福知山は休憩地点でもないということを聞いているが、すごくもったいないことだと思っている。地域資源は立派なものがあるので、それを上手く利用したほうがよい。
- ・もっと地域の人が自分たちの好きなまちを自分たちで案内できるような環境づくりが必要であると思っている。

☆事務局

- ・福知山が通過点となっている点について、大阪と京都の経接点と言いながら、その辺を改善していかないと観光消費額の増加はあり得ないと考えている。
- ・明智光秀の大河ドラマが決定し、2020年の年だけ観光客が多くなるのではなく、それをきっかけに観光協会等も含めて地域として観光の目玉を作っていくということを考えている。

☆産業観光課

- ・インバウンドでは、やはり天橋立や城崎で宿泊される方が多い。福知山も宿泊される方はいるが少数である。

- ・DMOへは福知山でお昼ご飯を食べていただくといった企画ツアーの造成をお願いしている。

★委員

- ・久しぶりに福知山に来て観光案内所に行き、そこに明智光秀のパンフレットがあったが、5年くらい前のものであった。もっと積極的にPRしていったほうがよい。

☆産業観光課

- ・福知山城は光秀ではなく秀満が長く城主であったこともあり、光秀はあまり来なかったというところもあるが、大河ドラマが光秀に決まったこともあり、それをPRしていくということで、「光秀が築いたお城」というような観点で発信をしていき、盛り上げていきたい。

★委員

- ・NO.3「福知山城憩いの広場（ゆらのガーデン）管理事業」について、来客者数や売上額については把握されているか。

☆産業観光課

- ・第3セクターのまちづくり会社から毎年、売上額等のデータをいただいている。
- ・平成29年度は11万7千人の来客者数であったが、28年度の13万6千人に対し約2万人ほど減少している。これは災害による閉店等が影響している。
- ・ゆらのガーデンができた24年度は21万人程度来ているので、近年落ち込んでいる状況にある。
- ・一方、大河ドラマが決定して以降、お城への来場者数は2～3割増加している。

★委員

- ・会社の者と話していたが、福知山市内には観光する場所がいっぱいあるが、単体でしか行ったことがないということであった。移動は何を使っているかという点とみんな車であった。
- ・要は目的の場所に車で行ってしまえばそこで終わってしまう。点在している場所を回遊して周っていくと、車では見えなかった良さというのが見えてくる。
- ・一つ一つのものをPRしていくということは良いことであるが、それを結ぶ道の中に小さい子どもやお年寄りが興味を持ってもらえるようなお店の紹介等、歩いてみたいと思わせるような、福知山の持っている良さを結びつけていくというやり方もあっていいのではないかと思う。

☆事務局

- ・京都府の副知事とお会いしたときに、周遊バスを使ったイベントについて異論を唱えられていたが、歩いてもらわないと地元にお金が落ちないということを話されていた。

★委員

- ・空き店舗の活用について、例えば畑で作ったものを直売所というような形で販売している農家の方がいるが、農家によって野菜の種類もバラバラで点在している。こういったものを空き店舗に集めて販売するという、空き店舗対策の一つとして農家とのコラボもありかなと思う。

☆農林業振興課

- ・福知山市に公設の市場がありそこで野菜の販売もしているが、やはりそこに出される方というのは限られており、買われる方も一部の方になっている。
- ・空き店舗を活用した話は参考にさせていただきたい。

★委員

- ・NO.5「地域資源の活用と創業支援による交流人口倍増戦略推進事業」のシートを見ると、インバウンド観光と記載されているが、福知山市はインバウンド観光が多いのか。

☆産業観光課

- ・人数として把握は難しいが、年々多くなってきている。

★委員

- ・移住定住促進について、明らかにアパートの数が少なく、移住されてきた方に聞くとアパートの家賃が高いと言われている。
- ・古い物件を見に行ってからリノベーションするのではなく、最初からリノベーションされている物件を見てもらえるような、移住者や大学生を呼び込む形が出来ると、市も頑張っているなという評価につながると思う。
- ・移住したいけど家賃が高いという話はよく聞く。学生の定住や移住を増やすと考えた時に、そういったことに予算を取ってでも踏み込んでいくべきではないかと思う。

☆まちづくり推進課

- ・低価格で移住者向けのお試し住宅というものを大江町と三和町に設けている。
- ・また、空き家バンクという制度もあるが、どちらも農山村地域であり、需要のある市街地に対してどう支援していくかということに関しては今後議論していかなければならない。